

今月のコラム

私もAD◎D?!

伊藤商事 伊藤孝巳



この2月より、息子に教えてもらいフェイスブックを始めました。私は植物好きなので園芸の友達が主で160人位、結構楽しくやってます。ところで先日、何人かの人のシェアでとても愉快的な投稿が目にとまりました。小学校低学年の国語のテスト(写真参照)です。ぜんぶ×でしたが、とてもユニークな答えに思わず笑ってしまいました。もしかして、多分、恐らく・・・この子はADLDじゃないかな?。超有名なビル・ゲイツやスティーブ・ジョブスがそうらしいです。

実はわたし自身かなり前からAD◎Dじゃないかな・・・と思ってます。何かに夢中になると周りが見えなく、聞こえなくなり他人からしたら「バカみたい!」という状態がかなり長く続いています。

最近では

この数年FRP製の岩石状植栽具や壁面花壇が頭の中をグルグルしています。そして今、私が持っている技術を駆使して、マンションのベランダやバルコニーは簡単に「花と緑の癒しの空間」にする自信があります。主流は今でも防水、防根、土盛り工事をして花や木を植えましょう・・・ですが、地震国の日本では私個人的には絶対お勧めできません。コンテナやFRP製擬岩、壁面花壇、ハンギングバスケット等、置くだけで素晴らしい花と緑の空間が出来るからです。

狭いから出来る!という意識革命が必要

都会で広いガーデンを持つということは大変です。後々のメンテナンスにもお金がかかります。畳2枚分くらいの狭いベランダやバルコニーガーデンなら、どれだけ密度の高いディスプレイをしてもくれたもの、老夫婦が毎日10時、花と緑に囲まれた夢空間でコーヒータイトム・・・もう20年前からそんな提案をしてるつもりなんですが・・・

今年の都市緑化フェア

ところで、今年の都市緑化フェアは東京都で開催されます。もう殆どの計画は出来てるようですが、ぜひ都会で生活する人のための「何か新しい園芸の提案」がいくつか展示されることを期待してます。いつも「私がしなかったら誰がする?」というような一種の使命感みたいなものを感じ、活動していますがなかなかうまく情報発信できておらず、でも何とかしなければ・・・とすごくこだわること自体、私は間違いなくAD◎D (ASD) みたいです。





カエデ
kaede

東日本大震災復興支援プロジェクト

第3回被災地小学校支援報告

平成24年6月18日

NPO法人ガーデンを考える会では、東日本大震災地域の小学校に対する支援活動として、昨年に引き続き岩手県釜石市の小学校4校及び宮城県気仙沼市の小学校11校に、3回目の支援活動を6月の13～14日に行いました。

当会では、両地区の小学校を対象とした長期的な支援プログラムを計画し、花壇やコンテナへの花や野菜の植え込みを通して、植物に係る児童教育の一環として役に立ってもらうよう考えています。

今回は気仙沼市の小学校8校に訪問し、その内の4校は授業活動として会員有志9名と共に花苗や野菜苗等の植え込みを行いました。その他の気仙沼市の小学校3校及び釜石市の小学校には、花苗や植え込み資材の提供をいたしました。

支援内容としては、春から夏花壇向けの1年草を主体とした花苗を約2,300ポット、ミニトマトを主体とした野菜苗を約350ポット、グリーンカーテン用の苗を約100ポット、それを植え込むコンテナを250個、培用土を約10t、及び肥料・野菜用支柱・グリーンカーテン用のネット等を、会員メンバー及び園芸業界被災地支援の会（中島吉之代表）から募り、秋まで楽しんでもらえるコンテナや花壇・グリーンカーテン作りのお手伝いです。

当日は2班に分かれて小学校を訪れ、1年生から6年生までの多くの児童と一緒に植え込み、その内の小原木小学校では、隣接する仮設住宅30戸の皆さんと総勢100名程で2時間近くをかけ植え込みを行いました。また、併せて今後の支援活動の希望等の聞き取り調査等を行いました。

先生方の話によると、児童を取り巻く社会環境が大きく変化する中、個々の児童の生活環境に格差が現れ始め、それが次第に様々な面で問題の芽となってきていることを危惧されている内容もありました。また、校庭の一部が津波による海水の浸水で、樹木に深刻な影響が出てきていると心配しておられる小学校もありました。

殆どの小学校では、以前のような「緑化」に関する予算を組む余裕はなく、かといって国や自治体からの震災復興予算には優先順位があり、学校花壇や校庭の樹木類に予算が充てられるようなことは、当分の間は期待できないような状況です。現状では民間からの支援に頼るしかないとのことで、我々の会からの長期的な支援の取り扱みには、大変有難いし期待もしているとのことでした。

震災から1年以上たち、ともすれば被災地地域への支援活動への関心は薄れていきがちな雰囲気もあるようです。しかしながら実際に現地に来てみると、震災直後とは異なった幅広い支援が必要なことがわかってきます。

当会では継続的な支援活動として、今年の秋に4回目の支援活動を予定しています。ぜひ多くの皆様が、これらの活動に参加して頂けるように願っています。

NPO法人ガーデンを考える会
会長 水野 隆



小原木小学校では、仮設住宅の皆さんと一緒に植え込み



一生懸命に植え込み(中井小学校)



児童からお礼の握手
(右は水野会長)

支援活動協賛会員等

アップルウェア(株)、さんこうえん、(株)シモジマ、(有)角田ナーセリー、豊明花き(株)、中島商事(株)、(株)花ごころ、(株)ハクサン、ハクサンインターナショナル(株)、北越農事(株)、(株)牧野、(有)緑花技研、(株)レイハウス、園芸業界被災地支援の会



ガーデンを考える会総会

水野会長続投

NPOガーデンを考える会(水野隆会長・ハクサンインターナショナル)は、6月12日午後、東京上野の東天紅上野店会議室で平成24年度総会を、全理事会社出席、前年を上回る出席者の中で盛会裡に開催しました。

冒頭、水野会長が挨拶しその中で「当会は、ビジネスを基本に、研修の場、コミュニケーションの場を目指し、またよりよいガーデントライアルとなるように頑張りたい。もう一つの柱として東日本大震災支援であるが、昨年度は皆さんのご協力を頂き、岩手県の釜石市、宮城県の気仙沼市の小学校に対して行ったが、今年も春と秋に行いたい」旨述べました。

会長挨拶のあと環境省自然環境局総務課の坂本真一課長補佐より来賓挨拶があり「北海道アポイ岳の花畑の復元に、家庭で苗を育て山に戻す里山制度がうまく機能している」旨の紹介がありました。

総会は、藤田茂理事(緑花技研)が議長となつてすすめられ、23年度事業活動、決算、24年度事業計画、予算案が原案通り可決されました。

次年度事業では、23年度と同様にガーデントライアルIN八ヶ岳を9月25～27日にフィオーレ小淵沢(山梨県)で、さらに規模を拡大して開催することなどが報告されました。

また、役員改選では、水野会長の続投と退任した佐藤健一副会長(E&Gアカデミー)に代わり新副会長に藤田茂理事が選任され、中島吉之氏(中島商事)と小松正幸氏(リック)が新たに理事に就任しました。

総会記念セミナーでは、「ガーデンビジネスの需要はまだ増やせる～新ネットツールの活用の現場から～」と題して、はちえんの坂田誠社長にリックの谷本智子氏が質問する形で進められましたが、新ツール活用のメリットを数々あげながら、スマートフォンは2年後には広く普及するので早く活用したほうがよいとしました。関西大学教授の深井麗雄氏は「ガーデニングの可能性について」、自分の体験に基づいて、業界側の対応がよければもっと楽しむ人は広がる、としました。



約60人出席した総会で挨拶する水野会長

第2回“日本ゼラニューム協議会”

青山にユーザーなど100名が参集

世界的に人気があり、特に欧州では生活に密着した形で親しまれているゼラニューム。そのゼラニュームを日本でももっと親しんでもうらおうと、ゼラニューム生産者をはじめ、種苗メーカー、小売関係者などが集まり、消費者にアピールする機会創出について意見交換した。第二回となる今回は、東京・青山の一等地にある共和5番館で開催。町田ひろ子



業界関係者、植栽ボランティアなど100名近くが参加した

アカデミーの生徒や、渋谷・青山景観整備機構(SALF)の植栽ボランティアなど一般ユーザーも参加し、前回は9割生産者で30名ほどだった参加者が、100名近くに増え、さまざまな視点からゼラニュームの魅力を考えました。



種苗メーカー協力のもと、国内で流通している200種以上のゼラニュームが展示され、参加者による上位5位の人気投票が行われた



『花』を必需品に、生産ではオンリーワンを

高見園芸 高見昌伸



消費税が2015年には10%になります。私達、生産者にはどのような影響があるのだろうか。日本を中心に販売をしていた花業界は少なからず打撃はあるのではないかと感じずにはいられません。ますます、なくてもいいものとして扱われる可能性があるのではと不安を感じてしまいます。

近年、諸材料は値上がりし、販売価格は下がる傾向があり、生産者を締め付け続けています。生産者はラベルを付け、ロングポットを使い、気温が安定すると露地へ出し丈夫にして、展示会内覧会に出展し付加価値を付けて注文を取り、または契約をして価格を安定してきました。

おそらく今後更なる何かが必要になってくるものと思われます。その何かとは私が思うには花の必要性を消費者にアピールしていくことではないかと思ひます。「なぜ、いるのか」「なぜ、植えるのか」。消費者に基本的なところを今一度訴えていくことが大切なことであるのは誰もが感じることはないかと思ひます。「なくてもいいもの」から「なくてはならないもの」にどうしたらなるのか、花業界みんなで話し合わなくてはいけないような気がします。

また、生産者個人は自分の生産しているものの統一性も今後考えて生産するべきだと思ひます。「どこを目指しているのか」「どのようなコンセプトがあるのか」「得意な分野は何か」「他には負けないものを生産しているのか」今後ますます細分化される傾向がでてくるのではないのでしょうか。

ともあれ私は何を隠そうあれもこれものどっちつかずの生産者です。おそらく「何を生産しているのか」と聞かれると迷わず「マルチ」と答えます。こんな私だからこそ今感じます。付加価値を付けて売る気なら自信のあるものを作ることが必要ではないか。そのためにはやはり「マルチ」ではなく「オンリーワン」商品を作ることが強い気持ち、独自の売り方を持てる気がします。

消費増税とともに今後ますます消費低迷の時代が来ることは間違いありません。誰もが感じることはないでしょうか。「花」を業界内でもっと力を合わせ、生活者にとって「必需品」になるように努力していきましょう。

会員紹介

サカタのタネ

株式会社サカタのタネは、2013年に創業100周年を迎えます。世界につながる港町・横浜で1913年に産声を上げ、現在は国内をはじめ、約130カ国で種子と苗の販売などを行っています。営利生産者向けはもちろんですが、趣味園芸家の方にもご愛顧をいただいています。ガーデニング、という言葉が今ほど一般的ではなかった1931年に通信販売事業を開始、1951年には直営店ガーデンセンター横浜を開店、全国の多くの園芸店様、量販店様、種苗店様と取引をさせていただいております。今後とも独自性の高い野菜と花の新品種をマーケットに続投しながら、「花は心の栄養、野菜は体の栄養」という言葉を真情に園芸文化の普及に努めてまいります。これからの100年も、サカタのタネをどうぞよろしく願いいたします。



ミニネットメロン「ころたん」(左)と水質浄化能力のある草花「サンパチェンス®」(右)



〒224-0041 横浜市都筑区仲町台 2-7-1
TEL:045-945-8800 FAX:045-945-8841
<http://www.sakataseed.co.jp/>